

平成23年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成23年11月8日

上場会社名 S B S ホールディングス株式会社 上場取引所 大  
 コード番号 2384 URL <http://www.sbs-group.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 鎌田 正彦 (TEL) 03 (3829) 2222  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 掛橋 幸喜 配当支払開始予定日 -  
 四半期報告書提出予定日 平成23年11月8日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無  
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年12月期第3四半期の連結業績（平成23年1月1日～平成23年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年12月期第3四半期	88,974	△0.5	1,041	△68.0	665	△81.1	308	△83.0
22年12月期第3四半期	89,465	3.1	3,255	88.9	3,525	50.4	1,807	△18.1

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
23年12月期第3四半期	2,508	02	-	
22年12月期第3四半期	14,791	91	14,751	35

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円	銭	
23年12月期第3四半期	98,121		22,585		22.7	180,778	79	
22年12月期	96,408		22,616		23.2	182,492	27	

(参考) 自己資本 23年12月期第3四半期 22,281百万円 22年12月期 22,344百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
22年12月期	-		0	00	3,000	00
23年12月期	-		0	00		
23年12月期(予想)					3,000	00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無： 無

3. 平成23年12月期の連結業績予想（平成23年1月1日～平成23年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	120,000	0.1	2,700	△36.6	2,200	△48.7	1,300	△39.3	10,617	45

(注) 当四半期における業績予想の修正有無： 無

4. その他（詳細は、[添付資料] P.3「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動： 有

新規 1 社 （社名）日本レコードセンター株式会社、 除外 1 社 （社名）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用： 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更： 有

② ①以外の変更： 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

23年12月期 3 Q	130,684 株	22年12月期	130,684 株
23年12月期 3 Q	7,433 株	22年12月期	8,244 株
23年12月期 3 Q	122,840 株	22年12月期 3 Q	122,198 株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続を実施しています。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3 ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	3
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災（以下、「震災」という）によって経済活動や個人消費が落ち込みましたが、その後の復旧、復興に伴い景気は徐々に回復しつつあります。しかしながら、極端な円高の進行や電力不足問題など先行きが読めない状態が続きました。

物流業界においても、震災によるお客様の操業停止、減産に伴う荷動きの低迷が続いたものの、復旧に伴って回復、通常時に戻りつつあります。しかし、円高による輸出関連業務の低迷、お客様の物流費削減の動きに同業者間の競争が加わり値下げ圧力が一層強まるなど、厳しい経営環境が続きました。

このような環境のもと、当社グループは、被災したお客様の復旧、復興を最優先とするとともに、当社グループ自身の東北・関東地区の物流機能の回復に努めました。

その一方で、当社グループは、全方位の物流機能を有する3PL企業集団をめざして掲げた事業、投資、海外戦略の推進などに取り組みました。新たな3PL業務の開始、日本レコードセンター株式会社の取得、インドの物流企業Atlas Logistics Pvt. Ltd.の買収（10月10日株式取得完了）など、今後の成長に向けた布石を打ちました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は、3PL業務の拡大やM&A効果が牽引したものの、震災による落ち込みと前年同期に保有物流施設の流動化を実施した影響などにより889億74百万円（前年同期比0.5%減）となりました。

利益面では、第3四半期連結会計期間に入り回復への動きがみられますが、震災後しばらく続いた稼働率低下の影響が大きく営業利益は10億41百万円（同68.0%減）、経常利益も6億65百万円（同81.1%減）に留まっております。四半期純利益につきましては3億8百万円（同83.0%減）となりました。これは特別損失として震災による物流施設や車両などの損失1億93百万円や資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額3億79百万円などを計上した一方で、有形固定資産の売却益4億1百万円などの特別利益があったことによるものです。

セグメント別の経営成績は以下のとおりであります。

なお、当連結会計年度よりマネジメントアプローチが導入された結果、報告セグメントを「物流事業」、「不動産事業」、「その他事業」としています。この中では、前連結会計年度までの「物流事業」から不動産賃貸にかかる事業を分離し「金融事業」内の物流施設開発・販売・賃貸事業と合わせて新たに「不動産事業」を設置しました。また、「人材事業」、「マーケティング事業」、「金融事業の不動産以外」、「その他事業」を統合し「その他事業」といたしました。

#### (物流事業セグメント)

物流事業は、前連結会計年度より当連結会計年度にかけてグループ入りしたVLロジネット株式会社、株式会社エイシーシステムコーポレーション、日本レコードセンター株式会社の3社の業績が加わったほか、新たな3PL業務が相次いで稼働するなど業容拡大に努めました。この結果、売上高は828億33百万円となりました。一方、営業利益は、第2四半期以降には回復傾向となっているものの、震災による物量減少による稼働率低下が響き、4億3百万円に留まりました。

なお、VLロジネット株式会社は、7月1日、ティーエルロジコム株式会社と合併いたしました。

#### (不動産事業セグメント)

不動産事業は、保有する施設をオフィス、住居、倉庫として賃貸する事業及び物流施設の開発・販売事業から構成されます。前連結会計年度に売却した物流センターの賃料収入の減少があったものの、売上高は17億89百万円、営業利益は8億37百万円となりました。

#### (その他事業セグメント)

その他事業は、人材、環境、マーケティングなどの事業から構成されます。人材事業、環境事業が振るわず、売上高は43億50百万円、営業損失は2億29百万円となりました。

注) 当連結会計年度よりセグメント情報の区分を変更したため、当第3四半期連結累計期間と前年同期との比較は行っておりません。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

#### ①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は981億21百万円となり、前連結会計年度末に比べ17億12百万円増加いた

しました。資産の増加の主なものは、現金及び預金の増加25億7百万円であります。

負債は755億35百万円となり、前連結会計年度末に比べ17億44百万円増加しております。これは主として短期借入金の増加11億70百万円および長期借入金の増加22億36百万円によるものであります。

一方、純資産は225億85百万円となり、前連結会計年度末に比べ31百万円減少いたしました。これは主として四半期純利益3億8百万円、配当金の支払い3億83百万円によるものであります。

## ②連結キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ25億7百万円増加し、98億90百万円となりました。

各キャッシュ・フローの主な増減要因は以下のとおりであります。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は24億32百万円（前年同期は71億91百万円の収入）となりました。これは減価償却費26億74百万円、売上債権の減少8億54百万円、税金等調整前四半期純利益4億54百万円などの資金の増加がありましたが、一方で仕入債務の減少2億28百万円、法人税等の支払い12億49百万円などの支出があったことによるものであります。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は19億48百万円（前年同期は26億24百万円の収入）となりました。これは主に有形及び無形固定資産の取得15億31百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得16億5百万円の支出などがありましたが、一方で有形及び無形固定資産の売却による収入12億27百万円があったことによるものであります。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は20億24百万円（前年同期は116億77百万円の支出）となりました。これは主に長期借入金72億90百万円、短期借入金の純増11億70百万円による資金調達を行った一方で、長期借入金の返済50億53百万円、配当金の支払い3億83百万円などの支出があったことによるものであります。

## （3）連結業績予想に関する定性的情報

震災により悪化したわが国経済は、生産活動や販売活動の正常化が進み、持ち直し傾向がみられますが、新たな円高問題など先行きには依然不透明感が残っております。

当社グループは、このような経営環境を注視していく必要がありますが、現在のところ平成23年8月9日に見直し、発表した平成23年12月期の業績予想に変更はありません。

## 2. その他の情報

### （1）重要な子会社の異動の概要

平成23年4月1日付で日本レコードセンター株式会社の株式を取得し、連結の範囲に含めております。

### （2）簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### （簡便な会計処理）

#### ①一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

#### ②棚卸資産の評価方法

棚卸資産の簿価切下げに関して、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

#### ③固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

また、一部の連結子会社では、固定資産の年度中の取得、売却及び除却等の見積りを考慮した予算を策定しているため、当該予算に基づく年間償却予定額を期間按分して算定しております。

#### ④法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発

生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

(会計処理基準に関する事項の変更)

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益はそれぞれ45,374千円減少しており、税金等調整前四半期純利益は424,931千円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は323,405千円であります。

(表示方法の変更)

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目を表示しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,926,324	7,418,624
受取手形及び売掛金	13,767,965	15,128,171
有価証券	300,687	300,686
たな卸資産	7,724,909	7,810,137
その他	6,659,574	5,290,621
貸倒引当金	△183,494	△49,352
流動資産合計	38,195,967	35,898,890
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	34,342,731	33,369,955
減価償却累計額及び減損損失累計額	△20,621,837	△19,573,076
建物及び構築物（純額）	13,720,894	13,796,878
機械装置及び運搬具	16,456,779	16,830,584
減価償却累計額及び減損損失累計額	△14,062,497	△14,104,749
機械装置及び運搬具（純額）	2,394,282	2,725,834
土地	32,850,775	32,984,319
リース資産	5,028,904	5,179,368
減価償却累計額及び減損損失累計額	△2,225,201	△1,973,564
リース資産（純額）	2,803,702	3,205,804
その他	2,798,713	1,906,048
減価償却累計額及び減損損失累計額	△2,382,673	△1,537,505
その他（純額）	416,040	368,543
有形固定資産合計	52,185,695	53,081,381
無形固定資産		
投資その他の資産		
投資その他の資産	6,742,192	6,233,156
貸倒引当金	△173,195	△87,910
投資その他の資産合計	6,568,997	6,145,246
固定資産合計	59,925,291	60,509,606
資産合計	98,121,259	96,408,496

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,794,930	7,002,890
短期借入金	18,840,000	17,670,000
1年内返済予定の長期借入金	9,920,781	5,690,617
1年内償還予定の社債	256,000	256,000
未払法人税等	212,327	825,842
賞与引当金	1,363,258	580,718
その他	5,399,147	6,401,308
流動負債合計	42,786,446	38,427,376
固定負債		
社債	1,430,000	1,686,000
長期借入金	17,409,512	19,403,194
退職給付引当金	3,449,507	3,597,915
その他	10,460,427	10,677,392
固定負債合計	32,749,447	35,364,502
負債合計	75,535,893	73,791,879
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,833,934	3,833,934
資本剰余金	5,418,063	5,418,063
利益剰余金	14,014,716	14,100,121
自己株式	△689,796	△765,058
株主資本合計	22,576,917	22,587,060
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△194,161	△97,632
繰延ヘッジ損益	△101,588	△145,073
評価・換算差額等合計	△295,750	△242,706
新株予約権	10,203	3,152
少数株主持分	293,995	269,111
純資産合計	22,585,365	22,616,617
負債純資産合計	98,121,259	96,408,496

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
売上高	89,465,841	88,974,531
売上原価	80,265,937	81,141,136
売上総利益	9,199,904	7,833,395
販売費及び一般管理費	5,944,873	6,791,444
営業利益	3,255,030	1,041,951
営業外収益		
受取利息	19,145	9,038
受取配当金	85,617	70,601
負ののれん償却額	685,438	—
その他	112,264	77,216
営業外収益合計	902,465	156,856
営業外費用		
支払利息	521,519	456,694
社債発行費	14,445	—
その他	96,166	76,916
営業外費用合計	632,131	533,610
経常利益	3,525,364	665,196
特別利益		
固定資産売却益	394,241	401,527
その他	107,556	128,238
特別利益合計	501,797	529,765
特別損失		
投資有価証券評価損	472,093	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	379,557
災害による損失	—	193,168
その他	251,162	168,024
特別損失合計	723,256	740,750
税金等調整前四半期純利益	3,303,906	454,211
法人税、住民税及び事業税	1,373,427	547,792
法人税等調整額	52,329	△404,602
法人税等合計	1,425,757	143,189
少数株主損益調整前四半期純利益	—	311,022
少数株主利益	70,606	2,937
四半期純利益	1,807,542	308,084

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,303,906	454,211
減価償却費	2,904,599	2,674,570
負ののれん償却額	△685,438	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△320,745	218,347
賞与引当金の増減額(△は減少)	706,041	736,540
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△242,060	△172,408
受取利息及び受取配当金	△104,762	△79,639
支払利息	521,519	456,694
社債発行費	14,445	—
投資有価証券評価損益(△は益)	472,093	—
有形及び無形固定資産売却損益(△は益)	△371,211	△344,897
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	379,557
売上債権の増減額(△は増加)	1,835,912	854,939
たな卸資産の増減額(△は増加)	2,265,428	19,691
仕入債務の増減額(△は減少)	△524,704	△228,947
その他	△529,817	△862,988
小計	9,245,207	4,105,671
利息及び配当金の受取額	104,403	78,641
利息の支払額	△591,518	△502,219
法人税等の支払額	△1,566,231	△1,249,932
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,191,860	2,432,161
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△26,000	△24,000
定期預金の払戻による収入	24,000	24,000
有価証券の取得による支出	△599,550	△299,880
有価証券の償還による収入	300,000	300,000
有形及び無形固定資産の取得による支出	△1,246,154	△1,531,516
有形及び無形固定資産の売却による収入	5,117,942	1,227,977
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△736,673	△1,605,522
その他	△209,136	△39,963
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,624,427	△1,948,903

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△7,020,000	1,170,000
長期借入れによる収入	4,141,000	7,290,000
長期借入金の返済による支出	△8,055,427	△5,053,517
社債の発行による収入	585,554	—
社債の償還による支出	△208,000	△256,000
自己株式の売却による収入	—	64,913
配当金の支払額	△281,055	△383,484
少数株主への配当金の支払額	△1,113	△5,070
その他	△838,228	△802,224
財務活動によるキャッシュ・フロー	△11,677,271	2,024,617
現金及び現金同等物に係る換算差額	△114	△175
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,861,097	2,507,699
現金及び現金同等物の期首残高	10,455,186	7,382,624
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,594,089	9,890,324

- (4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年9月30日)

	物流事業 (千円)	マーケティング事業 (千円)	人材事業 (千円)	金融事業 (千円)	その他の事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	79,442,778	1,436,323	3,165,764	4,964,490	456,484	89,465,841	—	89,465,841
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	164,133	139,753	149,351	1,056,041	44,052	1,553,331	(1,553,331)	—
計	79,606,911	1,576,076	3,315,116	6,020,532	500,536	91,019,173	(1,553,331)	89,465,841
営業利益又は営業損失(△)	1,888,660	27,949	36,827	1,198,343	△11,479	3,140,301	114,728	3,255,030

(注) 1. 事業区分の方法……役務の種類、性質等及び役務の提供方法の類似性を考慮して区分しております。

2. 各区分の主な業務

- (1) 物流事業……総合物流事業(一般物流、国際物流、通運、特殊運送、館内物流等)、食品物流事業(三温度帯物流、個配等)、専門物流事業(即日配送等)、これらを一括受託する3PL事業、物流コンサルティング事業
- (2) マーケティング事業……マーケティング・広告制作・広告代理事業、通信販売事業、メール便サービス事業(カタログ等の個配業務)等
- (3) 人材事業……一般労働者派遣事業、有料職業紹介事業
- (4) 金融事業……物流施設を中心としたアセットマネジメント事業および開発事業、リース・販売事業(車輛リース、燃料・タイヤ等販売)、保険代理事業
- (5) その他の事業……情報事業(WMS等物流情報システム構築・保守等)、環境事業(産業廃棄物処理、製品リサイクル処理等)

[所在地別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年9月30日)

本邦以外の国または地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

[海外売上高]

前第3四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年9月30日)

海外売上高は連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

## 〔セグメント情報〕

## 1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、純粋持株会社である当社の傘下において、各事業会社はそれぞれ独立した経営単位として戦略を立案し事業活動を展開しておりますが、当社グループの中核的事业につきましては当社が包括的・横断的に統括し管理することとしております。

このことから当社グループでは、報告セグメントを「物流事業」、「不動産事業」及び「その他事業」の3つとしております。

「物流事業」は、トラック輸送、鉄道利用輸送、低温物流、国際物流、物流センター運営、流通加工、企業向け即配便、個人宅配などの事業とこれらの事業を一括受託する3PL事業、物流コンサルティング事業、及びこれらに付帯する事業から構成されます。

「不動産事業」は、所有する施設をオフィス、住居、倉庫などの用途として賃貸する事業及び物流施設の開発・販売事業から構成されます。

「その他事業」は、人材、環境、マーケティングなどの事業から構成されます。

## 2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間（自平成23年1月1日 至平成23年9月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	物流事業	不動産事業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	82,833,963	1,789,851	4,350,717	88,974,531	—	88,974,531
セグメント間の内部 売上高又は振替高	251,422	15,644	398,366	665,433	△665,433	—
計	83,085,385	1,805,495	4,749,083	89,639,964	△665,433	88,974,531
セグメント利益又は セグメント損失(△)	403,652	837,556	△229,594	1,011,614	30,336	1,041,951

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去21,893千円及び各報告セグメントに配分していない親会社（四半期連結財務諸表提出会社）に係る損益8,443千円であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## (追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

## (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。